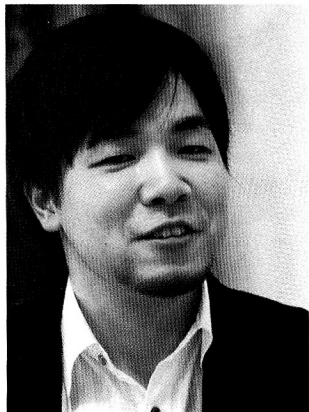


インタビュー | 関本昌平 (ピアノ)

## いつでも新鮮な気持ちで



昨年、創立40周年を迎えたピティナ(社団法人 全日本ピアノ指導者協会)。ピアノ指導者の資質の向上、ピアノを通した文化の振興のために、セミナーや演奏会、コンクールなどを行ってきた。営利目的ではなく、ピアノとピアノ音楽を愛する人たちに支えられてきたのだ。

アンヴァーサリー・イベントの最後を飾るのが「ピアノコンチェルトの夕べ」。この数年の間、ピティナ・コンペティションなどで目覚ましい活躍をした3人(金子一郎、須藤梨菜、関本昌平)が、渡邊一正の指揮するNHK交響楽団と共演するという、大きな企画

だ。中でも関本は、2003年ピティナ特級グランプリ、浜松国際ピアノ・コンクール第4位、そして05年にはショパン・コンクールで第4位入賞の逸材だ。「ずっとピティナ・コンペティションを受け続けることで、人前で弾く機会がたくさんもらえました。作品を仕上げるきっかけにもなったし、他の人の演奏を聴くことでも勉強になりました。最後に特級グランプリをいただいて、いい形で卒業できたと思います。どのコンクールも優勝・入賞することがゴールではなく、その後から本当の演奏家としての活動が始まることを考えないと、演奏に心がなくなってしまうと思っています」

今回は大曲ラフマニノフの3番に挑戦する。

「先生には心配されたし、複雑な楽譜を読むのは大変でしたけど、ゴージャスでメロディも美しく、ピアノの可能性の幅を広げさせてくれる作品に挑むのは楽しくもあります。録音などでホロヴィッツら名匠たちの演奏を聴くたびに、衝撃的で素晴らしい作品だと感じます。溢れ出す感情をコントロールしながら、自由自在に弾けたらと思います。聴いてわくわくするような、幸せなメロディとハーモニー、その裏には絶望もあります。深い音楽です。もちろん渡邊さん

とN響との共演は、どきどきしながらも楽しみです」

現在は桐朋学園大のソリスト・ティプロマコースの在籍しながら、演奏活動も展開している。

「レッスンは、いろんな可能性をいただくために受けるものと思うので、この先、誰か特定の先生に師事することはありません。海外から素晴らしい先生も頻繁に来日してくださるので、再びの留学も考えてないんです」

この4月にはイギリス室内管弦楽団との共演もある。

「どこで演奏しても気持ちは同じです。とにかく自分のベストを尽くして、いい演奏をする。海外での活動も嬉しいけれど、日本のクラシック・マーケットが世界のトップクラスであることを考えると、ここを拠点に活動するのがいいなと思っています。もちろん海外も含めて、さまざまなホールや聴衆の前で弾きたい。オンとオフの切り替えを上手にして、研究・勉強の期間と演奏の期間のバランスが取れたらいいな。いつも新鮮な気持ちでピアノを弾き続けたいですね」 取材・文：堀江昭朗

★ 3月28日(木)・サントリーホール  
● 発売中

問：全日本ピアノ指導者協会  
03-3944-1583